

【上海駐在員事務所】

## 「外債限度額管理について」(1/2)

中国人民銀行及び外貨管理局は2020年3月12日、「全範囲クロスボーダー融資のマクロプルーデンス政策因数の調整に関する通達」(銀発[2020]64号)を公布しました(同日より施行)。それに伴い外債限度額管理については以下ようになります。

### 1. マクロプルーデンスモデルに関する外債枠について

マクロプルーデンスモデルにおける政策因数が1.00から1.25に引き上げられました。この調整によって、マクロプルーデンスモデルを用いて外債を調達する企業は、クロスボーダー融資リスク加重残高上限(いわゆる「外債枠」)が従来の純資産額(直近の監査報告書基準)の2.0倍から2.5倍に拡大されることになります。

■ クロスボーダー融資リスク加重残高上限の計算方法は以下の通りです。

企業体	純資産額	資本金	×	レバレッジ率	×	マクロプルーデンス政策因数	=	外債枠上限
一般企業	純資産			2.0		(従来)1.00 ⇒(本件)1.25	=	(従来)純資産の2倍 (本件)純資産の2.5倍
銀行		一級資本	×	0.8	×			(従来)一級資本の0.8倍 (本件)一級資本の1倍
非銀行 金融機構		資本		1.0				(従来)資本の1倍 (本件)資本の1.25倍

■ 残高管理におけるクロスボーダー融資リスク加重残高額計算に関する各因数は以下の通りです(変更なし)。

計算因数	企業・金融機関共通	
期間リスク転換因数(A)	1.短期(<1年間)	1.5
	2.中長期(>1年間)	1
類別リスク転換因数(B)	1.オフバランス融資	1
	2.オフバランス融資(偶発債務)	1
為替リスク転換因数(C)	外貨建て	0.5

(マクロプルーデンスモデルの外債枠上限及び残高管理の計算例：純資産額100、借入金200の場合)

- 外債枠上限  $100 \times 2 \times 1.25 = 250$  (上限金額)
- 残高管理
  - RMB・短期:  $200 \times 1.5 \times 1 = 300$  (上限超過) > 250
  - RMB・中長期:  $200 \times 1.0 \times 1 = 200$  (上限範囲内) < 250
  - 外貨・短期:  $200 \times 1.5 \times 1 + 200 \times 0.5 = 400$  (上限超過) > 250
  - 外貨・中長期:  $200 \times 1.0 \times 1 + 200 \times 0.5 = 300$  (上限超過) > 250

照会先：上海駐在員事務所 (電話) (86) 21 6275 5198



# りそな銀行アジアニュース

2020年3月19日  
りそな銀行 国際事業部

【上海駐在員事務所】

## 「外債限度額管理について」(2/2)

この通り、借入金額が上限額以内に収まる場合でも、借入条件によって残高が上限を上回ってしまうリスクがありますので、ご留意いただくことが必要です。また、計算例で示した通り、人民元建ての中長期借入が一番外債枠の費消が少なく、外貨建ての短期借入が一番外債枠の費消が多くなります。

なお、政策調整などによって、残高が上限額を超過する場合、既存借入は期限まで継続可能ですが、残高が限度額以下に調整されるまで、新規調達及び借りかえは実行不可とも規定されています。

### 2. 投注差モデルに関する外債枠について(変更なし)

- 計算方法：投資総額－登録資本金（投資総額と登録資本金の差額）
  - 投資総額については、外資企業の「備案回執」あるいは「批准証書」の記載に基づきます。
  - 投注差モデルは、短期かつ外貨の場合のみ、資金返済後、外債枠が復元されます。
  - それ以外の場合は、一度調達すると外債枠が復元不可となりますので、十分な注意を払うことが必要です。

### 3. その他留意点

- 適用モデルを選択後、原則変更不可のため、慎重に検討することが非常に重要です。
  - 例外として、上海自由貿易区の企業は、既に投注差モデルを選択していても、マクロプルーデンスモデルに変更することが認められます。しかし、一度変更すると再変更は許可されません。
- 従来の投注差モデルからマクロプルーデンスモデルへ切り替える際、利用中の借入残高は、クロスボーダー融資リスク加重残高に組み入れることとなります。

### 4. 使用事例

- マクロプルーデンスモデルにおいて、企業が外債利用期間中に財務悪化し、残高が限度額を超過する場合、期日到来まで継続利用は可能ですが、期日をまたぐ借りかえは不可となります。期日が到来する際に、増資による債務返済あるいは債務免除を実行することが必要となります。
- 企業は、投注差の有無や多寡、財務状況、事業計画などを踏まえて相応しいモデルを選択して外債を調達しているため、どちらのモデルも利用されています。強いて言えば、マクロプルーデンスモデルを利用する企業がやや多く、外債枠が返済後復元されるということが一番の理由のようです。

照会先：上海駐在員事務所（電話）(86) 21 6275 5198

当資料は、信頼できるとされる情報に基づいて作成しておりますが、弊行がその正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前の連絡なしに変更されることもあります。当資料は情報提供のみを目的としており、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、お客様御自身でご判断下さいようお願い致します。 \* 禁無断転載